

論文名 : Assessment of the oral health-related quality of life and the health-related quality of life in the patients with stomatological diseases (要約)

(口腔疾患を有する患者における口腔関連 QOL と健康関連 QOL の評価)

新潟大学大学院医歯学総合研究科

氏名 栗生 麻衣

---

<緒言>

近年 QOL が重要な患者立脚型アウトカムの 1 つとして測定・定量化できるものであるという認識が定着し、スタンダード QOL 尺度とともに疾患特異的 QOL 尺度も開発され広範に用いられるようになった。う蝕や顎関節症、咬合の不調和、炎症性疾患などの口腔疾患は口腔関連 QOL のみならず健康関連 QOL にも影響を与えると考えられるが、健康関連 QOL と口腔関連の QOL との関連や、疾患による QOL への影響を検討した研究は少ない。本研究の目的は、口腔疾患を有する患者の口腔関連 QOL へ影響を与える要因を明らかにし、さらに患者の健康関連 QOL や口腔関連 QOL との相関を明らかにすることである。

<対象および方法>

対象者は、2014 年 6 月から 2016 年 3 月の期間に長野赤十字病院口腔外科を受診し、研究への同意が得られた、口腔疾患を有する 2061 名の患者(男性 904 名、女性 1157 名)とした。平均年齢は 46.3±19.7 歳(15 歳～95 歳)であった。対象者は診断に基づいて 5 つのグループに分類され、疾患の内訳は歯の疾患 1556 名(男性 690 名、女性 866 名)、嚢胞性疾患 97 名(男性 57 名、女性 40 名)、口腔粘膜疾患 136 名(男性 46 名、女性 90 名)、顎関節疾患 132 名(男性 48 名、女性 84 名)、炎症性疾患 140 名(男性 63 名、女性 77 名)であった。

QOL の評価は、健康関連 QOL の評価に日本語版 SF-8、口腔関連 QOL の評価に日本語版 GOHAI の 2 種の質問紙を用いた。臨床所見の記入には独自のプロトコルを作成し、DMFT、CPI、Eichner classification を記録した。疼痛の強さの評価には VAS を用いた。

統計解析は、SF-8 および GOHAI の平均値を国民標準値との比較には Welch の T 検定を用いた。口腔関連の指標、GOHAI、SF-8 の疾患別平均値の比較には Kuruskal-wallis 検定とペアワイズ比較を用い、DMFT、CPI、Eichner index、VAS 値、GOHAI スコア、SF-8 スコアの複数の項目の間の関連を評価する際には Spearman の順位相関分析を行った。統計解析ソフトは SPSS Statistics 21.0 for Windows (IBM Japan Ltd., Tokyo, Japan)を用いた。

<結果>

VAS 値の平均値は炎症性疾患が最も高く、次いで顎関節疾患が高値で、それぞれ歯の疾患、嚢胞性疾患、粘膜疾患との間に統計学的に有意差を認めた。対象群の GOHAI スコア、SF-8 の各項目の平均値はいずれも国民標準値を下回り、統計学的に有意差を認めた。各疾患間の GOHAI スコアと SF-8 の各項目の平均値の群間比較では多くの項目で粘膜疾患と顎

関節疾患，炎症性疾患は他の疾患よりも有意に低いスコアを示した。Spearman の順位相関分析では年齢，DMFT，Eichner index と SF-8 の身体的サマリースコアとの間に正の相関を認め，さらに GOHAI スコアは SF-8 の全ての項目との間に正の相関を認めた。一方で GOHAI は DMFT，VAS 値と負の相関を認めたが，年齢，CPI，Eichner index とは相関を認めなかった。

<考察>

本研究では，痛みの VAS 値は各疾患の群間で統計学的に有意差を認め，疾患により疼痛の差があることが示唆された。また，口腔疾患を有する患者の GOHAI スコア，SF-8 の各項目の平均値は，日本国民標準値より低く，統計学的に有意差を認めた。各疾患の群間比較では特に顎関節疾患，炎症性疾患の患者は歯の疾患，嚢胞性疾患の患者よりも GOHAI スコアが有意に低かった。また，口腔粘膜疾患，顎関節疾患，炎症性疾患の患者は，SF-8 の大部分のスコアが他の疾患より低かった。この結果は，口腔疾患が口腔関連 QOL のみならず，健康関連 QOL にも影響を及ぼすことを示唆しており，さらに疾患の違いによって及ぼす影響に差があることが示唆された。Spearman の順位相関分析では GOHAI スコアは SF-8 の全ての項目との間に正の相関を認め，口腔関連 QOL と健康関連 QOL が密接に関連していることが示唆された，一方で GOHAI は DMFT，VAS 値と負の相関を認めたが，年齢，CPI，Eichner index とは相関を認めなかった。このことは，口腔関連 QOL は今回調査した項目のみならず，歯の動揺や開口障害など，他の口腔内の状態にも影響されているためと考えられた。

<結論>

本研究では，口腔疾患が口腔関連 QOL と健康関連 QOL の双方に影響を及ぼし，さらに口腔関連 QOL は健康関連 QOL と密接に関連していることを示していた。また，疾患の違いによって及ぼす影響に差があることも示唆された。